

第2回 医療イノベーション会議幹事会

日時： 2012年4月23日(月)13:30-14:00

場所： 内閣府本府3階 第3特別会議室

参加者： 座長 石田 勝之 内閣府副大臣(国家戦略担当)
構成員 後藤 斉 内閣府副大臣(科学技術政策担当)
奥村 展三 文部科学副大臣
辻 泰弘 厚生労働副大臣
森田 高 総務大臣政務官
中根 康浩 経済産業大臣政務官
事務局 松本洋一郎 医療イノベーション推進室長

資料： 資料1 出席者
資料2 医療イノベーション5カ年戦略(中間報告)(案)
資料3 第2回医療イノベーション会議幹事会説明資料(文部科学省)
資料4 第2回医療イノベーション会議幹事会説明資料(厚生労働省)
資料5 今後戦略的に検討すべき主な事項(経済産業省)

1. 石田座長より、開会の挨拶

本年2月に開催した第1回幹事会では、医療イノベーション5カ年戦略を検討していくことについて合意が得られた。その後、3月2日の国家戦略会議において、野田総理からも医療イノベーションの推進に向け取り組むよう指示をいただいた。本日は策定作業中の5ヶ年戦略の中間報告を行い、今後のとりまとめに向けて議論を行いたい。

2. 資料説明

松本室長より、資料2に基づいて、「医療イノベーション5カ年戦略(中間報告)」を説明。

3. 各構成員からの発言

(辻厚生労働副大臣／資料4参照)

とりまとめていただいたので、私どもも連携をとって進めていきたい。医療イノベーション5カ年戦略として、世界をリードする革新的な医薬品・医療機器の創出及び世界最先端の医療、とりわけ個別化医療・再生医療について具体策が盛り込まれていることは大変意義深い。革新的な医薬品・医療機器の創出については、基礎から臨床応用まで支援を充実することが必要と考えているが、特に大学等から医薬品・医療機器メーカーへつなげる橋渡しがこれまでなかなかうまくいかなかった。今回の5ヶ年戦略の目玉として創薬支援ネットワークが掲げられており、その中で厚労省の医薬基盤研が司令塔となって、しっかり実用化の支援をして行っていきたい。

また臨床研究中核拠点病院を15か所程度創設する等、国際水準の臨床研究体制整備を推進していきたい。

さらに医療機器については、医療現場のニーズに応える医療機器の開発を支援するとともに、医

療機器の特性を踏まえた制度の見直しを進めていきたい。

個別化医療・再生医療に関しては、世界の動向を見つつ、今後関係省庁が協力して日本がリードするモデルを検討していきたい。厚労省としても、個別化医療はナショナルセンターにおけるバイオバンクの推進をおこない、再生医療では安全性と有効性を確認しながら、しっかり産業振興をはかっていきたい。

5 年戦略期間中に、先制医療という新しい医療の在り方についても議論していくとされていることは、大変意義深い。疾患の発症前に積極的な治療を行うことにより、健康長寿社会を目指す先制医療がどのようなものでこれまでの医療にどのような影響を及ぼしていくのか、丁寧に関係者と議論しながら進めていきたい。

これらの取組により、日本が世界から注目され、海外に積極的に発信できる医療の姿を今後とも描き努力していきたい。

なお、配布資料(資料4)について、当面の具体的な取組として配布した資料にあるように、ライフ・イノベーションの一体的な推進、東北発革新的医療機器創出・開発促進事業等を進めていきたい。こうした取り組みを通じて新しい薬等を患者により早く届けるとともに、医薬品・医療機器産業を我が国のリーディングインダストリーとしたい。

(奥村文部科学副大臣／資料3参照)

各関係府省、研究機関、産業界と一丸となってイノベーションに向けて取り組んでいかなければならない。そこで、3点申し上げたい。

- ①世界最高水準にある iPS の細胞研究等を通じた再生医療の推進が重要。
- ②東日本大震災の震災地を対象とした東北メディカル・メガバンクの取り組みを通じて、個々人に適切な治療が行われるように提供することが大事。
- ③重粒子線がん治療の国際競争力の強化や、スパコン「京」等による創薬・医薬技術への支援をしっかりとっていくことが大事。

こうした問題にしっかり取り組んで強力に実施していきたい。

これら取組みは、5 月にとりまとめ予定の医療イノベーション 5 年戦略にしっかり位置づけていただきたい。それぞれの機関がしっかり連携をしながら強化していくことが大事であると思っているので、積極的に貢献していきたい。

(森田総務大臣政務官)

超高齢化社会を迎える我が国において、イノベーションと我が国の従来からの強みである公的部門を含めた信頼性の高い医療サービスの全国的な展開というのはまさに一体不可分であり、そのためにも医療イノベーション5年戦略をつくるということは大変重要。

その中で、メイドインジャパンの薬なりデバイスなりが出てこない結果は残せないと思っているので、そのための下支えできる技術的基盤として、総務省が所管している情報通信基盤が重要と認識している。

総務省においては、患者の医療・健康情報をネットワーク上で安全かつ円滑に流通させるための広域的な医療・健康情報連携基盤(EHR)の確立・普及、東北の医療地域復興および次世代医療

の実現に向けて、東北メディカル・メガバンク計画の下、EHR構築の支援を推進していきたいと考えている。

室長からお話のあった大学との連携にも、EHRは非常に重要なもので、またがん治療でも高次医療機関・地域中核病院・ローカルなクリニックをつなぐために絶対に不可欠であり、そういう中でしかノウハウの蓄積はなし得ない。これは研究開発、予防医療、慢性疾患の管理、あらゆるものに通用する基盤となるので、そのためにも足元の日本の医療の質の向上の下支えの基盤としてのEHRの普及に取り組んでいきたい。

同時に情報セキュリティも非常に重要で、国民に安心して情報通信、特に機微な医療情報を含んだものを利用してもらうために、総務省としてセキュリティ対策に一層力をいれていきたい。

また、今後は在宅医療や医療・介護連携など、ICTの利用が様々な場面に波及していくと考えており、それらを見据えた新たな医療 ICT モデルの創出も目指していきたい。

(中根経済産業大臣政務官／資料5参照)

医療イノベーションは長寿社会における成長戦略そのものである。安全・信頼はもとより、産業としてこの分野をとらえていく。国際競争力、輸出力という力をつけていくことが必要。

医薬品・医療機器の競争力の強化、再生医療の実用化を促進するため、高度なものづくり技術を有する異業種・中小企業の新規参入・医工連携は、たとえば自動車をつくる技術が医療や介護の分野に応用できる。そういうところで、中小企業のカや技術力を事業化に進めていくためには、ベンチャーからの支援がきわめて重要。個人的にも東京女子医大と早稲田のTWInsを視察したことがあるが、ベンチャーもあまり時間がかかりすぎると資金力がもたない。規制緩和を含めスピードがきわめて重要。

また医療技術とサービス等が一体となった海外展開、公的保険では対応が困難な保険外の医療周辺サービスの振興、規制とか財政的制約のないところでの振興を、力強く推進し新たなヘルスケア市場を創出していく取組みが重要。こうした取組みが5か年戦略に取組まれることが重要。

これらの取組みを進めるうえで規制・制度改革の取組みも一体的に進める必要がある。特に日本のものづくりを活かせる医療機器と再生医療では、特性を踏まえた柔軟な制度にする、つまり審査の迅速化も必要だが、PMDA体制強化以上のさらなる取組みが必要。例えば医療機器等は使いながら改良をすることも当然あるわけで、第三者認証をこの分野に拡大して、医療機器を必要とする人に適格に迅速に提供されるような大胆な規制緩和を考えるべき。

また骨子①にもあるように、東京女子医大の岡野先生から聞いた話だが、これまでの医療は治せるものだけを治してきたが、これからは治せない難病とか希少疾病とかを治していくようにならないといけない。また、個別一人ひとりの必要に応じた医療を提供することが重要。ニーズにこたえるオーダーメイドの医療提供体制の確立をしていかなければならない。国際標準化も④の特許戦略・国際標準化戦略ということで記載しているが、こういう国際標準化もしっかり獲得していくことが、医療イノベーションを通じて国力を強いものにしていくものだと考える。

(後藤内閣府副大臣)

一点報告と質問。総合科学技術会議の下で、現在、ライフ・イノベーション推進協議会が近々スタ

ートして、医療イノベーションの方向性がさらに加速できるように下支えしていきたいと考えている。

あわせて、今日の5ヶ年戦略の中間報告については、具体的な行程表等についてはこれから作成するのか。

(松本室長)

おっしゃるとおり。細部には少し調整をかける部分もあるので、それをやりつつ具体的・実効性あるプランにしていきたい。

4. 締めくくり

(石田内閣府副大臣)

何点かコメントしたい。

- ①創薬支援ネットワーク構想については、日本発の医薬品が創出されるよう、具体的な検討を進めていきたい。
- ②再生医療について、日本の研究は世界レベルにあるので、早期に実用化にむけ、具体的取組みについて検討していただきたい。
- ③医療機器について、日本の優れたものづくりが開発に生かせるよう、制度の在り方を含め、今後のビジョンを打ち出していきたい。

以上を含め、本日の会議での議論をもとに、各省で緊密に連携して検討を深め、5月末に開催予定の医療イノベーション会議での医療イノベーション5カ年戦略の策定に向け、検討を進めていただきたい。5カ年戦略の検討状況については、5月初めに開始予定の国家戦略会議に中間報告を求められている。本日の議論を踏まえ、私の責任で資料を修正し、報告させていただくのでご了承いただきたい。

以 上